

修士論文（要旨）  
2017年1月

中国の大都市部に居住する高齢者の孤独感に関連する要因

指導 杉澤秀博 教授

老年学研究科  
老年学専攻  
214J6901  
ウ シュンエン

Master Thesis (Abstract)  
January 2017

Factors Related to Feelings of Loneliness among the Elderly in Metropolitan  
areas in China

Yu Chunyan  
214J6901  
Master's Program in Gerontology  
J. F. Oberlin University  
Graduate School of Gerontology  
Thesis Supervisor: Sugisawa Hidehiro

## 目次

1章 緒言	1
1. 研究背景	1
2. 先行研究	1
1) 孤独感の定義と使用する尺度	1
2) 高齢者の孤独感の現状と健康やwell-beingへの効果	2
3) 孤独感に関連する要因	3
(1) 取り上げられてきた要因	3
(2) 性別	3
(3) 婚姻状態・居住形態	3
(4) 社会的支援・社会的ネットワーク	3
(5) うつ	4
(6) 身体健康	4
(7) 中国における研究	4
3. 目的	4
2章 研究方法	5
1. 調査対象者と調査票の配布・回収	5
2. 測定項目	5
1) 孤独感	5
2) 家族構成	5
3) 社会的ネットワーク	5
4) 社会的支援	6
5) うつ症状	6
6) 身体健康	6
7) その他	6
3. 分析方法	6
1) 孤独感と独立変数の二変数間の関連	7
2) 孤独感に対する各独立変数の独自効果：多変量解析による分析	7
4. 倫理的配慮	7
3章 結果	7
1. 分析対象者の特性	7
2. 孤独感と独立変数との二変数間の関連	8
1) 独立変数が質的変数の場合	8
2) 独立変数が量的変数の場合	9
3. 孤独感に関連する要因の多変量解析	10
4章 考察	10
謝辞	12

## 要旨

### 1. 研究背景

中国においては、改革開放以来の経済発展、平均寿命の延び、「ひとりっこ政策」などにより、高齢人口が急増しており、今後も増加が続くと予測されている<sup>[1][12]</sup>。人口の高齢化に伴う問題は21世紀の巨大な挑戦の一つである。高齢者が直面する課題としては、高齢者の孤独感などがあり、それに対する対応策として高齢者の心を支える「心のケア」の重要性が指摘されている<sup>[2]</sup>。

### 2. 先行研究

孤独感はどのようなことと関連しているであろうか。取り上げられてきた要因には、性、婚姻状態、居住形態、社会的ネットワーク、社会的支援、うつ症状、健康・生活機能がある。その中で、性<sup>[6][5]</sup>、婚姻状態<sup>[7]</sup>、居住形態<sup>[15]</sup>、社会的ネットワーク<sup>[3][4][8][9]</sup>、社会的支援<sup>[8][14]</sup>、うつ症状<sup>[13][18][16]</sup>、健康・生活機能<sup>[6][10][11][13][17]</sup>が孤独感と関連していることが明らかにされている。中国においても、ソーシャルサポート、主観的幸福感<sup>[11]</sup>、親孝行への期待、子供との関係、趣味・仕事の有無によって孤独感に差があることが明らかにされている<sup>[17]</sup>。しかし、取り上げられている要因が限定的であり、対象地域も農村部に限定されたものが多く、一般化するには問題がある。

### 3. 仮説

本研究では、北京市に在住する高齢者を対象として、孤独感に影響を与える要因を明らかにすることを目的とする。仮説は、次の通りである。

- ①居住形態の影響については、単独世帯の高齢者はそれ以外の世帯の高齢者よりも孤独感が強い。
- ②家庭構成の影響については、配偶者がいない人、子どもの数が少ない人では孤独感が強い。
- ③社会的ネットワークの影響については、ネットワークの大きさ（「信頼できる親戚数」「信頼できる友人数」「信頼できる近所の数」）が小さいほど、また、交流頻度が少ないほど、高齢者で孤独感が強い。
- ④社会的支援の影響については、社会的支援が少ない人では孤独感が強い。
- ⑤うつ症状の影響については、うつ症状が強い人では孤独感が強い。
- ⑥身体健康の影響については、主観的健康観が良くない人、睡眠質が良くない人、慢性疾患の罹患数が多い人、あるいは日常生活活動能力が低い人では孤独感が強い。

### 4. 研究方法

#### 1) 対象と調査方法

北京市に在住の60歳以上の住民を対象とした。選定の条件は、日常会話が成立する程度の能力を持っているとし、調査協力に承諾した221名に紹介者を通じて調査票を配布した。調査票は自記式調査票であった。回収は1週間後を目処に対象者宅に訪問して行った。本研究では、191票回収できた(回収率86.4%)。そのうち、無回答を含む調査票を除き162票(配布した調査票の73.3%)を有効票とし、分析対象とした。

#### 2) 測定項目

- (1) 従属変数：孤独感は「改訂版UCLA孤独感尺度」を用いた。

(2) 独立変数：①家族構成：世帯構成（単独世帯か否か）、配偶者の有無、子どもの数を測定した。②社会的ネットワークについては、Hirschに従って作成した社会的ネットワーク・リストと野口（1991）の尺度<sup>[20]</sup>を参考に、大きさと交流頻度の2つの尺度で評価した。③社会的支援を測定するため、野口（1991）により開発された尺度を使用した。④うつ症状については、高齢者用に開発された高齢者用うつ尺度短縮版（GDS15）<sup>[21]</sup>（Sheikh & Yesavage 1986）を使用した。⑤身体健康の測定項目としては、慢性疾患への罹患の有無、活動能力、健康度自己評価、睡眠の質を用いた。活動能力は「老研式活動能力指標（古谷野，他1987）」を用いて評価した<sup>[19]</sup>。⑥その他：性別、年齢階級、学歴などの基本属性を評価した。

### 3) 分析方法

(1) 孤独感と独立変数の二変数間の関連を統計するために、独立変数が量的変数の場合、ピアソンの積率相関で分析した。2値の質的変数の場合はt検定、3値以上の質的変数（年齢階級、学歴）の場合には一元配置の分散分析を用いた。

(2) 孤独感に対する各独立変数の独自効果を統計するために、重回帰分析を行った。

分析には、統計ソフト SPSS23.0 for Windows を用いた。

## 5. 結果

社会関係の構造的側面の「ネットワークの大きさ」と社会関係の機能的側面の「社会的支援」、心理健康の側面の「うつ症状」と身体健康の側面の「老研式活動能力」が他の要因の影響を調整した上でも有意な効果をもっており、仮説を支持する結果が得られていた。

睡眠の質と健康度自己評価、慢性疾患の有無、世帯の種類、配偶者の有無、学歴については、孤独感に対して有意な効果が観察されなかった。

## 6. 考察

世帯の種類や配偶者の有無については、多変量解析の結果、有意な効果は観察されなかった。これらの指標が孤独感に有意に有意な効果がなかったのは、社会関係指標やうつ症状と強く関連していることから、これらの要因によって説明可能であることが示唆されている。以上、本研究で明らかにされた高齢者の孤独感に関連する要因は、日本や欧米で明らかにされた要因に類似しており、欧米や日本における知見の中国における妥当性が示唆されている。

高齢者が抱える孤独感を解消するために、身近な人や地域、社会でどのような対応をしていくべきなのかは大きな課題である。第1に、日本でもその試みが始まっているように、対人関係が弱い、特に家族・親族サポートが弱い高齢単身者を主な対象者とし、地域見守り推進活動によるサポート作りを、高齢者の身近にいる近隣住民や商店など多様な人々や組織・機関と協働で行うことが必要である。第2には、高齢者が地域でお互いに支え合う友愛訪問活動、ボランティア活動に積極的に参加出来るような体制づくりが必要である。

今後の課題としては、因果関係の方向性をより明確にするためにも、縦断調査が必要である。

## 【引用文献】

- 1)内閣府 2015 平成27年版高齢社会白書(全体版).
- 2)齋藤静 2008 高齢期における生きがいと適応に関する研究—ネットワークの観点から—. 現代社会文化研究.
- 3)谷脇, えみ, 他 2002 家族と同居する在宅高齢者の孤独感. 高知医科大学
- 4)長田久雄, 他 1989 高齢者の孤独感とその関連要因に関する心理学的研究, 老年社会科学, 202-217.
- 5)長田久雄, 他 1989 高齢者の孤独感とその関連要因に関する心理学的研究, 老年社会科学, 202-217.
- 6)工藤力, 長田久雄, 下村陽一 1984 高齢者の孤独に関する因子分析的研究老年社会科学, 167-185.
- 7)総務庁長官官房老人対策室 1987 老人の生活と意識, 中央法規出版.
- 8)藤原武弘・来嶋和美・神山貴弥・他 1987 独居老人の孤独感と社会的ネットワークについての調査的研究, 広島大学総合科学部情報行動科学教室.
- 9)東京都老人総合研究所社会学部 1978 一人暮らし老人の孤独感についての研究, 東京都老人研究所.
- 10)下開千春:「高齢単身者の孤独の要因と対処資源」研究開発室, 2005. 9.
- 11)長谷川万希子・岡村清子・安藤孝敏・他 1994 在宅老人における孤独感の関連要因, 老年社会科学, 16(1), 46-51.
- 12)中华人民共和国国家统计局 2011 中国统计年鉴.
- 13)黎芝 2012 UCLA孤独感量表中文简化版(U LS-8)的考评及应用研究.
- 14)刘志荣・悦进发 2003 老年人孤独及其相关因素研究, 中国公共卫生. 19 (3) , 293-295
- 15)张立龙 2015 居住安排对老年人孤独感的影响, 老龄心理, 第3卷第2期.
- 16)王晓刚・陈卓 2007 孤独的概念辨析 保健医学研究与实践, 4(1), 81-84
- 17)邓蓉 2016 非正式社会支持与中国老人的心理健康, 贵州社会科学.
- 18)DHM Creemers, RHJ Scholte, RCME Engels, MJ Prinstein, RW Wiers 2011 Implicit and explicit self-esteem as concurrent predictors of suicidal ideation, depressive symptoms, and loneliness. 43(1), 638-46
- 19)松井豊・堀洋道 2001 心理測定尺度集III—心の健康をはかる〈適応・臨床〉, サイエンス社 8-10.
- 20)野口裕二 1991 高齢者のソーシャルネットワークとソーシャルサポート—友人・近隣・親戚関係の世帯類型別分析, 老年社会科学, 89-105.
- 21)汪向东・王希林・馬弘 心理卫生评定量表手册(增訂版) 中国心理卫生杂志社. 253-256